

MIKI CHO
PHOTO CONTEST
2023

テーマ「記録に残しておきたい三木町」

【プリント部門】

グランプリ1点 賞金5万円 石川直樹賞(特別賞)1点 賞金5万円
優秀賞(入選)3点3,000円相当特産品

写真の大きさ… 四つ切、ワイド四つ切に限りませ。＊カラー・モノクロは問いません。
応募資格… プロ・アマチュアを問いません。日本国内在住の方に限りませ。
応募期間… 令和5年8月1日(火)～令和6年1月10日(水)当日消印有効
応募方法… ①応募票に必要事項を明記の上、作品裏へ貼付
(複数点応募の場合は応募用紙をコピーしてください。)
②三木町観光協会事務局(ベルシティ内)へ郵送または持込みによる応募
結果発表… 令和6年2月中旬頃入賞者へ郵便で通知
切り取り線

三木町フォトコンテスト2023 応募票				
作品名				
撮影年月		撮影場所		
住所		電話番号	-	-
フリガナ				※記入しないでください 作品No.
氏名		性別 / 年齢		

※作品1点につき裏面に貼付(プリント部門)

11月13日(月)からKIT*MIKIホームページにて応募開始

第14弾

三木の「ええもん」もらえるキャンペーン

「あぐりぼん株式会社」の
女山峰イチゴ

年2回

第14弾(2023年11月分)は、三木町のあぐりぼん株式会社に生産された女峰イチゴをプレゼント。あぐりぼん株式会社は「四国の農業活性化に貢献したい」との想いを胸に、2018年に四国電力が設立した農業法人で、全国的に生産量が減少し、希少価値が高まっている女峰の栽培を主に行っています。女峰は食べた瞬間口いっぱいに広がるどこか懐かしい風味で、甘みと酸味のバランスに優れ、コクのある深い味わい特徴です。また、きれいな円錐形の果実は果芯に空洞がなく、カット断面も鮮やかな紅色で、食味・色・形ともにこれぞイチゴ!という品格が漂います。

編集後記(スミヲ)

稲刈りが始まった頃、そして令和5年に行了たFIBAバスケットボールワールドカップ2023で、三木町出身の渡邊雄太選手が活躍していた頃にこの編集後記を書いています。ワールドカップといえば、AKATSUKI JAPANがアジア勢最上位を確定し、1976年モントリオール大会以来の48年ぶりの五輪出場権を獲得しました。特に日本とフィンランドの試合は、見事な逆転勝利によって、日本がワールドカップで17年ぶりに勝利をおさめることができた歴史的勝利でした。残念ながら私はリアルタイムで応援することができなかったのですが、勝利の映像を見た瞬間、「まるで映画のような出来事だ!」というお祝いの気持ちと、歴史的瞬間を見逃してしまったという悔しさを同時に感じたものです。三木町出身の方がプロ選手として世界で活躍されることは、個人的にもとても誇りに思いうれし事です。実は、三木町では「三木町ゆめ基金」という飲料用自動販売機で購入した代金の一部等を積み立て、行政と町民が一体となって芸術・文化・スポーツ等の分野で活躍が期待される人材を支援する制度があります。そんなわけで、町に設置されたゆめ基金の自動販売機のジュースを購入して、微力ながらも未来の輝かしい人材の応援に努めていきたいと思うこの頃です。

応募期間

令和5年8月1日(火)～令和6年1月10日(水)

身近にあるものを記録することでそれを「宝」として次の世代に繋ぐことができます。
あなたも次世代に引き継ぎたいものを写真で遺してみませんか?

審査

主催者が委嘱する審査員／石川直樹(プリント部門・特別賞)

応募規約

応募規約をよくお読みいただき、同意の上で応募ください。
本フォトコンテストに応募した時点で、応募規約に同意したものとします。

応募/問合せ先

(一社)三木町観光協会
〒761-0703 香川県木田郡三木町大字鹿伏310番地ベルシティ内
TEL 087-802-5510 平日9:30～17:00(昼休み12時～13時、土日祝・年末年始を除く)

特別審査員

石川直樹

1977年東京生まれ。東京芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。
人類学、民俗学などの領域に関心を持ち、辺境から都市まであらゆる場所を旅しながら、作品を発表し続けている。2008年「NEW DIMENSION」(赤々舎)、「POLAR」(リトルモア)により日本写真協会賞新人賞、講談社出版文化賞、2011年「CORONA」(青土社)により土門拳賞を受賞。2020年「EVEREST」(CCCメディアハウス)、「まれびと」(小学館)により日本写真協会賞作家賞を受賞した。著者に、開高健ノンフィクション賞を受賞した『最後の冒険家』(東英社)ほか多数。主な個展として、『この星の光の地図を写す』(国内6カ所の美術館で開催)ほか、沖縄県立美術館(沖縄/2010)など国内外で開催されている。2021年より「三木町フォトコンテスト」の特別審査員を務める。2022年には香川県で撮影した写真集「MOMENTUM」を刊行。

【Instagram部門】

グランプリ1点賞金2万円
優秀賞(入選)8点3,000円相当特産品

応募資格… プロ・アマチュアを問いません。日本国内在住の方に限りませ。
応募期間… 令和5年8月1日(火)～令和6年1月10日(水)23:59まで
応募方法… ①Instagramのアプリをダウンロード・アカウント登録
②三木町公式Instagramアカウント「@kit_miki_kagawa」をフォロー
③ハッシュタグ「#kimitomiki2023」をつけて撮影場所を記載して投稿
ハッシュタグ「#kimitomiki2023」のない投稿は無効
結果発表… 令和6年2月中旬頃入賞者へInstagramダイレクトメッセージにて通知

【応募】

◆作品は2022(令和4)年1月以降に、三木町内で応募者本人が撮影したもので、過去に他のコンテストなどで入賞していないもの、他のフォトコンテストに応募中、または応募予定でないものであることとします。
◆1人につき何点でも応募できますが、賞は1人につき1点とします。
◆被写体が人物の場合は、肖像権についてご本人の承諾を得た上で応募してください。(被写体が未成年の場合は、親権者の承諾)
◆立入禁止区域や私有地等からの撮影となった場合、管理者・所有者等に立入による撮影の承諾を得た上で応募してください。
◆合成写真、複製写真、著しい画像処理・加工した作品の応募は不可とします。
◆プリント部門における応募作品は返却いたしませんのでご了承ください。
【個人情報】
◆応募票に記載された個人情報は①応募などに関する問合せ②入賞に関する通知③主催者による作品紹介・広報活動以外に同意なく第三者へ開示はしないものとします。

【応募作品の使用】

◆応募作品の著作権は応募者に帰属します。入賞作品の使用権は(一社)三木町観光協会及び三木町に帰属し、広報活動やその他WEB媒体等で応募者の許諾なく、無償で使用させていただきます。
◆入賞作品の展示等において入賞者の名前を表示する場合があります。
◆入賞者は、画像データを提出していただきます。
(ファイル形式:JPEG、TIFF、PNG)
【その他】
◆著作権や肖像権等の第三者の権利侵害があった場合、それに関するトラブルの責任は一切負いません。
◆上記注意事項に違反した場合は、入賞決定後でも取り消す場合があります。

https://www.town.miki.lg.jp/kit-miki/

三木町ふるさと会報紙 年2回発行

三木町フォトコンテスト2022

プリント部門グランプリ作品
内原巧

2023 Autumn

三木町フォトコンテスト2022 Instagram部門グランプリ作品
hiroyuki_morii

Kit*MIKI

ON PAPER

三木町ふるさと会報紙

年2回お届けします!!

発行

三木町地域活性課

〒761-0692 香川県木田郡三木町大字氷上310番地

☎087-891-3320(地域活性課)

メール: miki-furusato@town.miki.lg.jp

©2023 MIKI-TOWN All rights reserved.



MIKI CHO PHOTO CONTEST 2022

結果発表! 「みんなでつくる三木町アルバム」

「みんなでつくる三木町アルバム」をテーマに、令和4年9月20日から令和5年1月10日まで作品を募り、プリント部門で97点、Instagram部門で577点と大変多くの応募をいただきました。応募くださった皆さま、ありがとうございました！
ここでは、各賞を実際の地図と照らし合わせて、ご紹介いたします。
皆さんも、ぜひ三木町で写真をとって、思い出の1ページに加えてみてはいかがでしょうか。三木町では今後も、皆さんが撮影した三木町の魅力あふれる写真を公式Instagramアカウント「@kit_miki_kagawa」で紹介させていただきます。ぜひ、公式アカウントをフォローしていただき、あなたの自慢の写真にハッシュタグ「#きっとみき」をつけて投稿してください。



三木町公式
Instagramアカウント

https://www.instagram.com/kit_miki_kagawa/

2023開催中 シシ!!
詳しくは本紙裏面に
掲載してるシシ



Instagram部門
優秀賞



コスモス畑／三木町井上 hiroyuki_morii



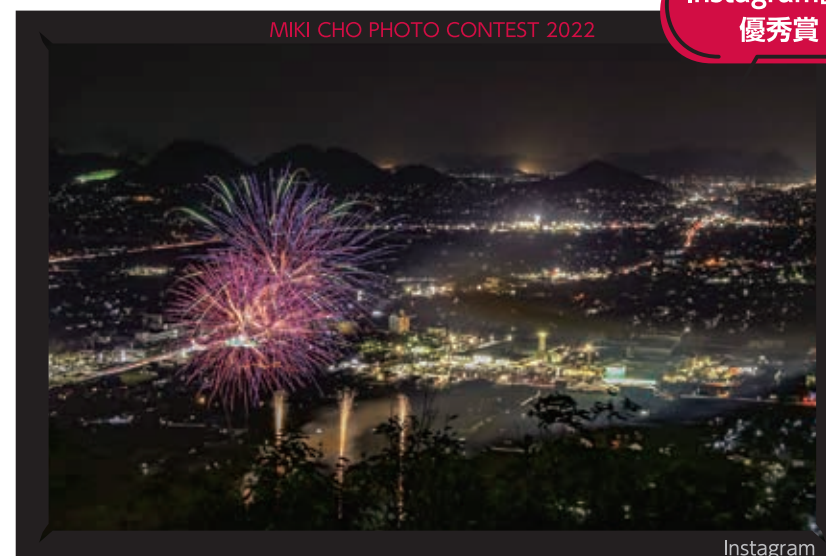
コトデン新川橋梁 uenidel



太古の森 muran6



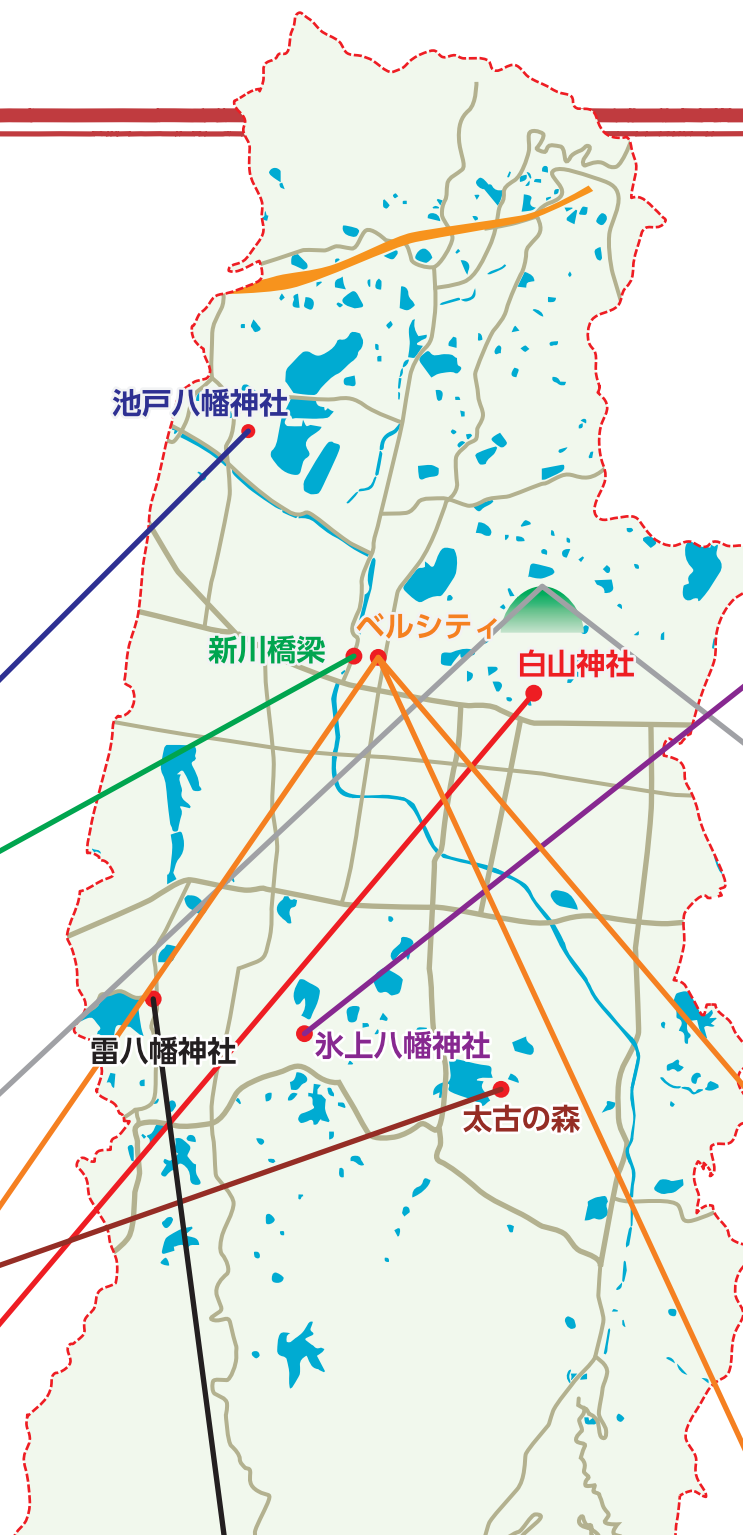
「電車が来た」 白山神社 相津一善 (綾川町)



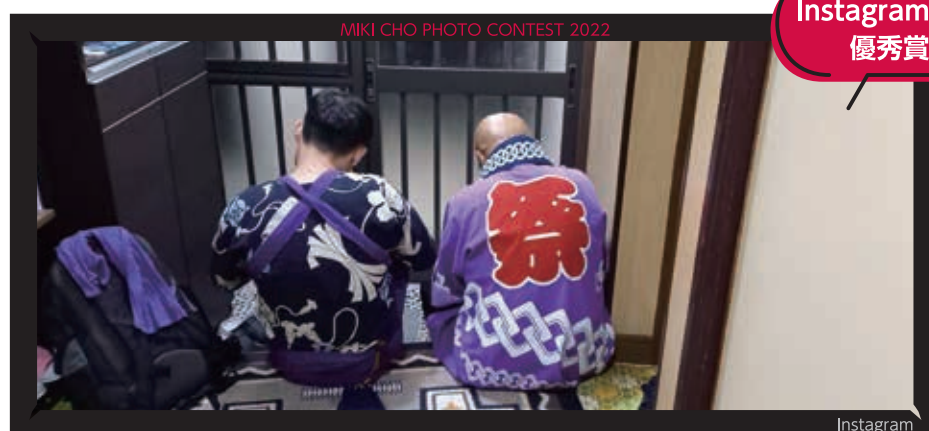
白山山頂(獅子たちの里三木まんで願。2022) tanitaniyan2



ベルシティ(獅子たちの里三木まんで願。2022) miki_kagawa_chiikiokoshi



「上手な獅子舞」 雷八幡神社／三木町田中 内原巧(三木町)



三木町田中(氷上八幡神社秋季例大祭に向かう親子の背中) hossy_1967



「大しめ縄奉納」 氷上八幡神社 多田博樹(三木町)



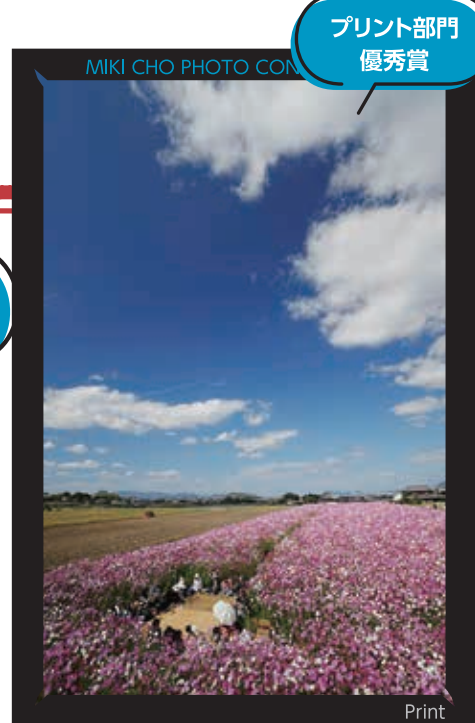
「光を受けて」 白山山頂より西方 溝淵正明(三木町)



ベルシティ(獅子たちの里三木まんで願。2022) sweaterphoto



ベルシティ(獅子たちの里三木まんで願。2022) miki_mandegan



「お花見畑」 三木町田中 美濃透(三木町)

三木町の魅力体験オンラインツアーを実施しました！

三木町ふるさと住民票 オンラインツアーイベント

●やきもの工房onuma → 小養地区 → 苺ファーム森本 → IDOMALL

<お届けした三木町の特産品>

今回のツアーでは、三木町内の自然、食、伝統工芸品がテーマ。お届けした三木町の特産品は、三木町の苺ファーム森本の苺(女峰)、はとやのお菓子(三ツ子石マドレーヌ、小養の途、常光寺らっぱいちょう)、山南営農組合の小養で作ったにんにくみそ、讃岐装飾瓦やきもの工房onumaの讃岐装飾瓦の箸置きです。魔除けや縁起物として作られる讃岐装飾瓦について、瓦と同じ素材で作られた箸置きをお送りし、感触や重さなどを実際に体感していただきました。



香川県三木町を、車窓からご案内!



苺ファーム森本



IDOMALL

のどかな田園広がる三木町の景色や、そこで暮らす元気な人々。そんな三木町の魅力をもっともっと知って欲しい!そんな思いで、2022年より始まったオンラインツアー。

2回目となる今回は三木町内の自然、食、伝統工芸品をテーマに、本当にバスに乗って旅行しているような体験をしながら、三木町の池戸と井戸のエリアからLive中継して、地元ガイドとして三木町観光協会会長の串田さんと一緒に、地域の人たちと交流しながら、各エリアにある魅力的なスポットやお店を生中継でお届けしました。

最初に訪れたのは、池戸エリアにある讃岐装飾瓦やきもの工房onuma。伝統工芸士の神内さんと一緒に、工房内で焼き窯の使用方法、試作品などの見学を行いました。

次のLive施設に移動する途中、小養地区についても紹介。「つなぐ棚田遺産〜ふるさとの誇りを未来へ〜(ポスト棚田百選)」にも選ばれた小養の風景から、サンダリエ、どんぐりころころ、昭和の宿こみのなどの施設を紹介しました。

最後に訪れたのは、井戸エリアで女峰を栽培している苺ファーム森本。生産者の櫻井さんと一緒に、苺を栽培しているハウス内を見学したり、事前にお送りしている苺を実際に食べたりしながら、苺について教えてもらいました。

オンラインバスツアー終了後は、櫻井さんと一緒に同じく井戸エリアにあるIDOMALLにお邪魔して、交流会を行いました。交流会では、「ガイドブックなどにはあまり載っていない地元の人のおすすめが直接聞けるのがよかった」「地産の食べ物を試食、試飲したい」といったお声もいただくなど、三木町の魅力を満喫していただきました。

疑似体験をしていただくことで、本当に三木町へ旅をしているような経験ができるのがオンラインツアーの魅力の一つです。なかなか遠くて三木町に訪れることができない、三木町についてもっと知りたい、そんな皆さまに、是非一つのきっかけとご縁になりますよう、これからも企画をさせていただけたらと思います。

三木じまんモニターイベント

米袋ワークショップ → 小養地区紹介 → 返礼品に関する意見交換会



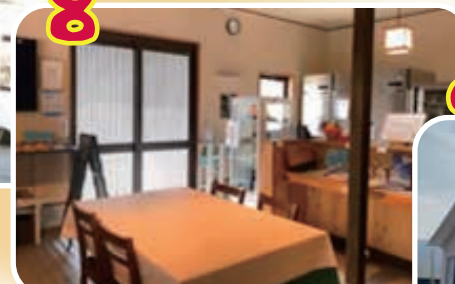
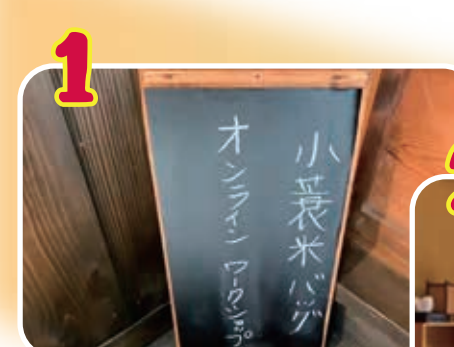
「三木町自慢の地場産品の魅力を、もっともっとたくさんの人たちに知って欲しい...」「三木町ふるさと住民の皆さまのお力をお借りしたい!」

そんな地元生産者さんの思いを叶えるために始まったオンラインイベントで、二回目となる「三木じまんモニターイベント」を開催しました。

このイベントのきっかけは、町内にある高校、県立三木高校の生徒の皆さんからのご提案です。2020年に実施した「三木町の地域課題を考えるプロジェクト」において、ふるさと住民票の新たな取組としてご提案いただいたアイデアが企画の始まりでした。

今回のイベントの舞台となったのは、三木町小養地区。

ツアーの中で、山南営農組合の安田さんと筒井さんと一緒に、この地域の返礼品である「お米」とそのお米にあう食材を使った「ご飯のお供たち」を味わったり、米袋を使ったワークショップに参加したりして、小養の食、暮らしを体験していただきました。



<お届けした三木町の特産品>

こみの米や、前回の会報紙(2023年春号)にて紹介したこみのロマン(古代米)、ご飯のお供たちです。



・美味しいです
・ご飯が進みました
・猪肉初心者に最適

・体験型の返礼品もいいかも
・意外な利用方法に気づかせてくれました

GOAL

☆ゞご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました!

令和5年度オンラインツアー開催予定

日時・内容は決まり次第KIT*MIKIホームページやメールマガジンにてお知らせします。

2024年1月頃開催予定シ!

今年のオンラインツアーは、「発見・学び」がテーマ。町内の魅力スポットや三木町の工場・施設などの普段見られないオンラインならではのスポット巡りを企画中です。ふるさと住民の皆様の交流の機会にも、是非ご参加ください。





よっしーの地域おこし活動をご紹介します！

地域おこし協力隊の芳田裕美さん(愛称:よっしー)が三木町に着任して約2年。三木町の地域活性化のため、様々な活動を行ってくれています。会報紙でおなじみとなってきたコーナー。これまでのよっしーの活動をご紹介します。

三木町地域おこし協力隊公式Instagram
@miki_kagawa_chiikiokoshi➡



https://www.instagram.com/miki_kagawa_chiikiokoshi/



◆移住体験施設 「TSUMIKI HOUSE」の整備

空き家を活用し、「移住者ネットワークの拠点」と「三木町の暮らしが体験できる場所」を整備する取り組みです。三木町の魅力を伝えるため、また、地域でつながるきっかけづくりができればと考えています。室内の片付けをしながら、改修の計画を進めているところですが、天井に穴が開いたり、思っていたよりも大変な工事が必要になりそうです。

私の取り組みを聞いて、いろんな方が声をかけてくれたり、不要な家具などを提供してくれました。つながりにとても助けられています。片付け作業には、さぬき市、東かがわ市の協力隊仲間が手伝いに来てくれて、とても心強かったです。仮の看板ができました。



まずは網戸の張り替えなどからスタートし、床や天井の改修、塗装などに挑戦します。地域の方と一緒にDIYの学びの場にもしたいです。6月には、香川大学の学生がTSUMIKI HOUSEに来てくれて、地域おこし協力隊の活動紹介をしました。



◆こみの古代米プロジェクト2023

地域のにぎわい作りを目的に、小菰の棚田で、古代米の一つである緑米の栽培・商品化に取り組んでいます。今年は、田んぼを倍の面積に増やしました。地域の方と一緒に土づくりから始めて、川から水を引き込むための水路工事もしました。そして6月には、昔ながらの田植えや餅つきなど、小菰ならではの体験を楽しんでもらえるイベントを開催しました。参加者の方からは、「子どもが最初は興味がなかったけど、だんだんのめりこんでくれてうれしかった」というお声をいただき、稲刈りも楽しみにしてくれています。



米作り2年目の挑戦は、田植えまでの工程や水の管理もできるようになること。また、草刈り機デビューをして田んぼの畔の草刈りをしたり、耕作放棄地をひまわり畑にするなどの挑戦も楽しんでいます。



古代米「こみのロマン」、ぜひ楽しみにしてください。

◆ニュース!! 『ヤギの赤ちゃん誕生と成長』

3月初め、2組のヤギにそれぞれ赤ちゃんが生まれました。できるかもしれないとは話していましたが、急に生まれたので驚きました。お母さんヤギも初めての子育てで、まだ寒い時期だったので心配しましたが、赤ちゃんがミルクを飲むようになってホッとしました。ラントとおこめくんの子どもは、「はじめちゃん」。



みるくちゃんとおこめくんの子どもは、「くるみちゃん」です。



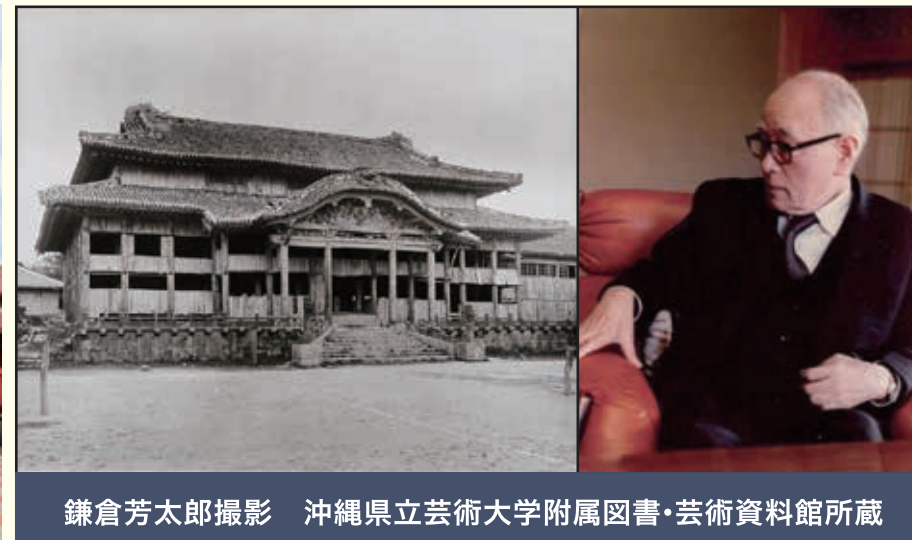
赤ちゃんの誕生に、小菰は暖かい空気に包まれ、みんなでヤギの子育てと子ヤギの成長を見守っています。子ヤギたちはすくすく成長して、生後1ヶ月くらいで、ツノが生え始め、草も少しづつ食べるようになりました。だんだんと動きも活発になって、頭突き(ヤギの挨拶)してきたり、アクロバティックに跳びはねたりして驚かされました。父ヤギは、子をいじめてしまう可能性があるために、子ヤギが生まれるとすぐに、少し離れた畑に移されました。母ヤギが子育てしている間、おこめくんとおこめもんは一緒に暮らしていました。最初はケンカして流血騒ぎになりましたが、寝るときは一緒なので可愛いです。ヤギたちはイベントでも大活躍で、地域に欠かせない存在になっています。脱走したり、柵の間に首を突っ込んで抜けなくなったり、とても世話焼きですが、笑。今後も小菰のヤギファミリーをよろしくお願いします。

首里城を3度救った三木町出身の鎌倉芳太郎

三木町
観光協会便り



国営沖縄記念公園(首里城公園)



鎌倉芳太郎撮影 沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵

2019(令和元)年11月、首里城の正殿等が全焼するといった衝撃的なニュースが全国を駆け巡りました。その時焼けた建物は、かつて沖縄戦の戦火で焼失し、1992年に復元されたものです。この復元に大きく貢献した人物こそ、**三木町出身で人間国宝**に認定された**鎌倉芳太郎**です。今年で芳太郎が亡くなって40年、2026年の復元に向け、鎌倉芳太郎の功績は再び注目されています。鎌倉芳太郎は、香川県氷上村(現三木町)に生まれ、1973(昭和48)年「**型絵染**」の**重要無形文化財保持者**に認定されました。

1918(大正7)年東京美術学校図画師範科に入学し、卒業後の1921(大正10)年4月より沖縄県女子師範学校の教師として赴任し、「琉球芸術」を精力的に踏査しました。帰京後の1923(大正12)年東京美術学校研究科に入学し、東京美術学校の正木校長から紹介されて、東京帝国大学の伊東忠太教授と出会うと教授からその資料を絶賛され、師事することになりました。翌年3月、首里城正殿の取り壊しを知るとすぐに伊東教授に相談し、内務省を通じて、史跡名勝記念物として保存されることで、工事を中止させることになりました。このことで「沖

縄の恩人」と呼ばれています。その後、戦争で焼失した首里城を復元する際に図面などを記録したノートや、かつて撮影した多数の写真が資料となって、1992(平成4)年再び首里城を救うこととなりました。足かけ7年をかけて調査したそのノートは、全部で81冊。沖縄研究の第1級の資料として「**鎌倉ノート**」と呼ばれ、千枚以上の写真資料とともに2005(平成17)年資料の一部「琉球芸術調査写真」が国の重要文化財に指定されました。

2023年は鎌倉芳太郎没後40年の功績に触れていただく機会としてワークショップとシンポジウムを開催！

■令和5年7月29日(土)／8月5日(土)型絵染めワークショップ



■令和5年9月24日(日)シンポジウム

沖縄県立芸術大学名誉教授波照間永吉氏による基調講演とパネルディスカッションを行いました。



今年も
開催決定!!



「これから」を生きる子どもたちが地域の自然やモノに触れて、「気づき」「学び」を体験できるイベント。

～アウトドアマルシェ～

ベテランキャンパーによるフリーマーケット。アウトドア用品・車両の展示販売など、視覚から膨らむアウトドアが楽しく映ります。

～火育de飯盒炊飯～

薪の種類、火のおこし方やたき火作法など火を学び、そこから飯盒でご飯を炊いていきます。みんなでカレーも作って楽しみたいと思います。

～マルシェ～

三木町はもちろん、県内外からおいしいモノやこだわりのつまんだアイテムがたくさん並びます。どんなお店が登場するのかお楽しみに。

イベントの詳細は
三木町観光協会HP・
Instagramに掲載中!



<https://mikicho-kanko.com/topics/I627.html>

——シャトルバスをご利用ください(無料)——
ベルシティ⇄総合運動公園(1時間に1本で運行)



他にも色々
盛り沢山!!